2026 年 7 月 15 日

会　員　各位
関係者　各位

食農資源経済学会
会長　前田　幸嗣

2026 年度 食農資源経済学会 第 20 回大会（福岡大会）のご案内

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、2026 年度食農資源経済学会第 20 回大会（福岡大会）を下記のとおり開催いたします。多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

【1】日　程

9 月 5 日[土]	◇シンポジウム	9：00～17：00（TKP エルガーラホール 7 階中ホール）
	◇学会賞表彰式	12：40～13：00（TKP エルガーラホール 7 階中ホール）
	◇懇親会	18：00～20：30（TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール）
9 月 6 日[日]	◇研究報告会	9：00～16：00（TKP エルガーラホール 7 階 多目的ホール 1・会議室 1）

※総会は、8 月 27 日[木]～9 月 3 日[木]に、メール審議とオンライン web 会議による質問対応で開催予定です。詳細は、メールおよび学会 HP にてお知らせいたします。

【2】会　場

◎シンポジウム・研究報告会会場

TKP エルガーラホール
〒810-0001　福岡県福岡市中央区天神 1-4-2　エルガーラホール 7 階

◎懇親会会場

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール
〒810-0001　福岡県福岡市中央区天神 1-4-1　西日本新聞会館 16 階

◎会場アクセス

シンポジウム・研究報告会会場と懇親会会場は隣り合ったビルであり、会場までの主なアクセス方法は以下のとおりです。6～7 ページ目の会場マップ等もご確認ください。

福岡空港・JR 博多駅から：福岡市地下鉄 空港線（姪浜／筑前前原／西唐津 行）乗車
→ 天神駅 下車 → 徒歩 5 分

西鉄天神高速バスターミナルから：徒歩 3 分

お車でお越しの方：TKP エルガーラホールの地下 4～5 階に駐車場がありますが、提携駐車場ではありません。上記もしくは近隣の駐車場をご利用ください。

◎飲食・昼食

会場内は飲食物の持込不可となります。
飲料は、会場内の自動販売機でご購入ください。
昼食は、会場周辺の飲食店やコンビニをご利用ください（弁当の準備はありません）。

【３】エクスカーション

エクスカーションは実施されません。

【４】第 20 回大会記念シンポジウム（8/18 情報更新）

○シンポジウム共通テーマ
『九州沖縄農業の課題と産学連携』

○スケジュール
9:00～9:05　開会
9:05～9:10　学会長挨拶　前田幸嗣（九州大学）
9:10～9:20　座長解題　　辻　一成（佐賀大学）・内藤重之（琉球大学）

9:20～9:55　第 1 報告（鹿児島県）
「遠隔産地・鹿児島県における物流危機対応と青果物輸送の展望」
報　告　者　：坂井教郎・亀川　藍（鹿児島大学）
コメンテーター：関野寛道（鹿児島県農業協同組合中央会 営農サポートセンター長）

9:55～10:30　第 2 報告（沖縄県）
「沖縄農業の特徴と循環型農業実現への課題－島嶼における堆肥問題－」
報　告　者　：杉村泰彦・原田　宙（琉球大学）
コメンテーター：嵩原義信（沖縄県農業協同組合中央会 代表理事専務）

10:30～11:05　第 3 報告（福岡県）
「米の安定供給に向けた JA 系統における米集荷の実態と課題・対応策」
報　告　者　：森高正博（九州大学）
コメンテーター：重松信和（福岡県農業協同組合中央会 農政広報部部長）

11:05～11:40　第 4 報告（佐賀県）
「佐賀県平坦地農業における農事組合法人の担い手確保の課題
－神埼市千代田町農事組合法人の継承と効率化の視点から－」
報　告　者　：李　錦東・辻　一成（佐賀大学）
コメンテーター：安藤新一（佐賀県農業協同組合中央会 農政広報部次長）

11:40～12:40　昼食
12:40～13:00　学会賞表彰式

13:00～13:35　第 5 報告（大分県）
「大分県における新規就農対策の現状と課題
　　－経営環境の変化に対応した支援システムの構築に向けて－」
報　告　者　：森　宗一（別府大学）
コメンテーター：森田哲郎（大分県農業協同組合中央会 担い手支援部部長）

13:35～14:10　第 6 報告（宮崎県）
「宮崎県中山間地域における労働力確保の課題と支援システムの可能性」
報　告　者　：西　和盛・坂本貴子（宮崎大学）
コメンテーター：渡邊靖仁（宮崎県農業協同組合 営農企画部営農企画課課長）

14:10～14:45　第 7 報告（長崎県）
「長崎県における外国人労働力をとおした農業労力支援の現状と課題」
報　告　者　：吉本　諭（長崎県立大学）
コメンテーター：松浦祐介（長崎県農業協同組合中央会 営農担い手サポートセンター長）

14:45～15:20　第 8 報告（熊本県）
「熊本県の農福連携，農福＋α連携・農生業・農業活動への展開」
報　告　者　：濱田健司（東海大学）
コメンテーター：藤川修朗（熊本県農業協同組合中央会 営農生活センター所長）

※第 1～8 報告は、報告 25 分・コメント 10 分

15:20～15:30　休憩
15:35～17:00　討論

【５】大会参加の申し込み

大会・懇親会への参加希望者は、下記 URL または QR コード（Peatix）より、参加登録と、大会参加費・懇親会費の支払いを行ってください。
大会参加登録　：**９月　２日（水）12 時**まで
懇親会参加登録：**８月 27 日（木）12 時**まで

①大会参加登録（シンポジウム・研究報告会）
https://peatix.com/event/5079834

②懇親会参加登録

https://peatix.com/event/5079835

＊上記 URL または QR コードから参加登録ができない場合の連絡先

大会実行委員会・事務局：髙橋義文（九州大学）

E-mail：shokunoshigen.2026[at]gmail.com

※[at]を@に変換してください

件名を**「大会参加申込み・氏名」**として、上記アドレスまでメールをご送信ください。その際、シンポジウム、研究報告会、懇親会のそれぞれについて、参加の意向をお知らせください。事務処理の都合上、可能な限り上記 URL または QR コードからの参加申し込みにご協力ください。

【６】研究報告の申し込み

報告希望者は、**7 月 31 日［金］（必着）**までに、報告要旨 1 ページ分（「研究報告要旨作成要領」参照）のデータファイル（Microsoft Word）を電子メールに添付し、メールの件名を**「研究報告申込み・氏名」**として下記の学会事務局宛に送信してください。

なお、研究報告会での発表を希望される非会員の方は、申込締め切りまでに、入会申請手続きと年会費（2026 年 8 月 1 日～2027 年 7 月 31 日分）の支払いを行ってください。

報告時間は（質疑を除いて）15～20分の予定です。報告順、時間等については追って学会HPに掲載いたします。

研究報告要旨送付先：学会事務局　髙橋昂也

E-mail：jimu[at]shokunoshigen.jp

※[at]を@に変換してください

【７】大会参加費

①大会参加費：2,000 円（非会員　3,000 円）

②懇親会費　：7,500 円（学生会員 5,500 円）

【８】主催・協賛

主催：食農資源経済学会
協賛：福岡県農業協同組合中央会、福岡市農業協同組合

【大会についてのお問い合わせ先】

（1）第 20 回大会（福岡大会）についてのお問い合わせは、以下にお願いいたします。
大会実行委員会・委員長：井上憲一（九州大学）
大会実行委員会・事務局：髙橋義文（九州大学）
E-mail：shokunoshigen.2026[at]gmail.com
※[at]を@に変換してください

（2）当学会への入会および研究報告等についてのお問い合わせは、以下にお願いいたします。
食農資源経済学会・学会事務局：髙橋昂也
E-mail：jimu[at]shokunoshigen.jp
※[at]を@に変換してください

以上

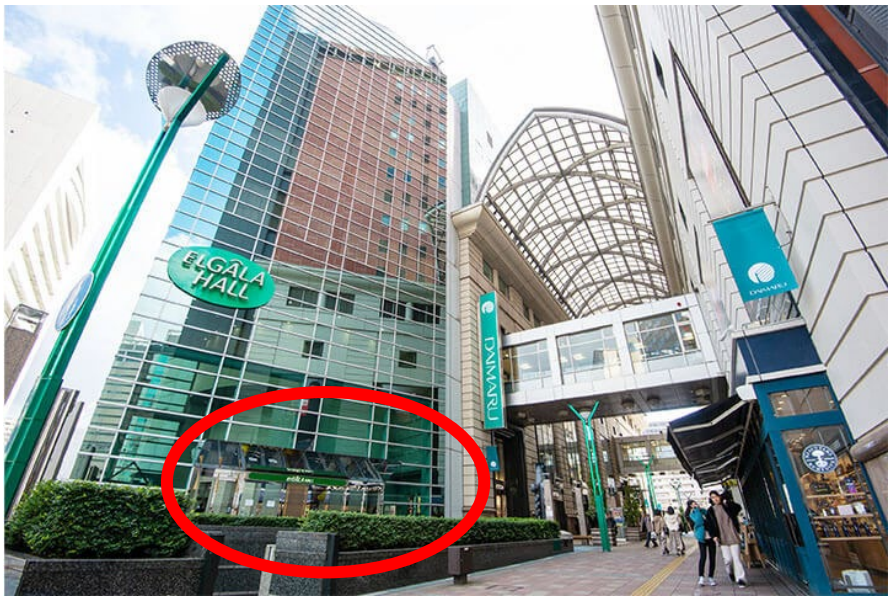
○会場マップ

※地下鉄天神駅から天神地下街を通って地上に上がる際、最も近い出口は東９番となります。

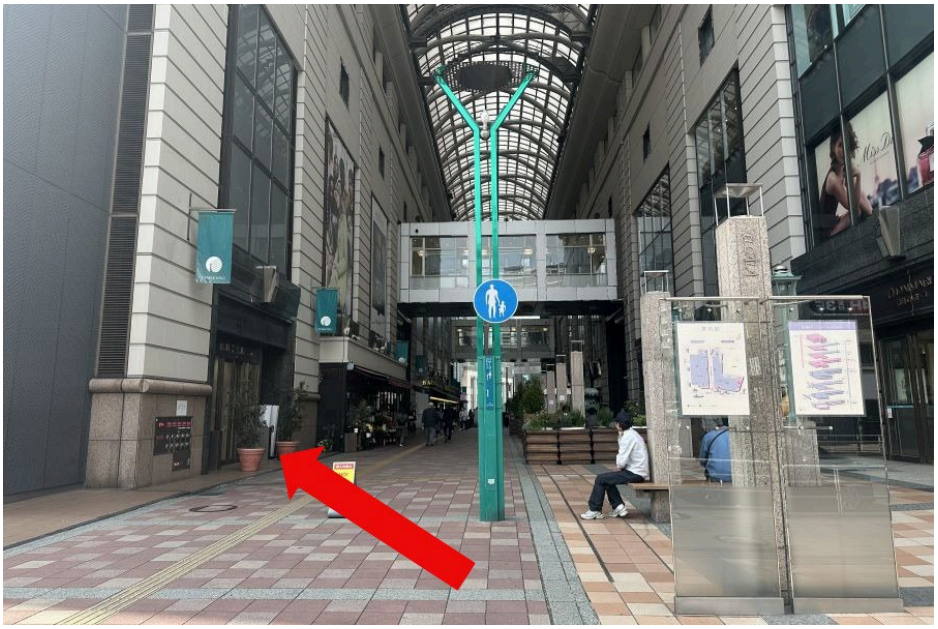
○会場入口風景（TKP エルガーラホール）

※赤丸で囲んだ場所が TKP エルガーラホールの入口となります。

※建物に入った後、エレベータで７階までお上がりください。



〇会場入口風景（TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール）



※目前がパサージュ広場、右側が TKP エルガーラホールの入る建物で、赤矢印の先が TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホールの入る建物の入口となります。

※建物に入った後、エレベータで 16 階までお上がりください。

〇アクセス情報

より詳細なアクセス情報を以下からご確認いただけます。

TKP エルガーラホール：
https://www.elgalahall.jp/access/

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール：
https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gcp-tenjin-skyhall/access/

研究報告要旨作成要領
Manual for Making Abstract

1. 書式 Form

1）A4 判横書き。横 35 文字×縦 32 行。
2）上下，左右にそれぞれ 30mm の余白を取る。
3）文字のフォントサイズは全て 12 ポイント。
4）読点は「,」（全角コンマ），句点は「。」。

1）A4 size and vertical 32 lines
2）Take the blank of 30mm in top and bottom, right and left.
3）All font size 12pt.

2. 構成 Constitution

1 行目 : 題目 MS ゴシック，センタリング。題目が 2 行にわたる場合は，適宜改行してセンタリング。
　　副題 MS ゴシック，センタリング，ハイフンで閉じる（－副題－）。
2 行目：空白行。（副題がある場合は，その次の行を空ける。以降同様。）
3 行目：氏名（所属），MS 明朝，センタリング。姓と名の間は全角 1 文字空ける。
4 行目：空白行。
5 行目：本文，MS 明朝。英数文字は半角，Times New Roman。

Line 1) Title; Times New Roman, Bold, Centering. When the title spans two lines, break the line and center it accordingly. In addition, when there is a subtitle; Centering and using colon.
Line 2) Blank line.
Line 3) Name (Affiliation), Times New Roman, Centering.
　How to write name; “Givenname SURNAME” (surname with all letters capitalized)
Line 4) Blank line.
Line 5) Text; Times New Roman.

3. 設定 Setting

用紙サイズ	A4	上段マージン	30ミリ
紙の置き方	縦方向	下段マージン	30ミリ
1行文字数	35文字	左端マージン	30ミリ
1ページ行数	32行	右端マージン	30ミリ
文字方向	横書き	ページ番号	付けない
本文のフォント	MS明朝	フォントサイズ	12ポイント
英数文字のフォント	半角，Times New Roman		

Paper Size	A4	Header margin	30mm
Print orientation	longitudinally	Footer margin	30mm
Number of lines per page	32	Left margin	30mm
Font	Times New Roman	Right margin	30mm
		Page number	Don't write
		Font size	12pt

4. その他 Other

上記設定をしたテンプレートを学会ホームページよりダウンロードし，適宜利用すること。
Please download and use the template with above settings from the website.

九州地域における農業・農村の持続的発展に向けた課題と展望
－福岡県を事例として－

九州　花子（九州大学）
九州　太郎（九州大学）

九州は他地域に比べて温暖であり，米，麦，大豆，飼料作物をはじめとする土地利用型作物のほか，果樹や野菜といった労働集約的作物の栽培が盛んである。九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であり，農業の持続的発展のあり方を探ることが，とても大きな課題になっている。

Challenges and Prospects for Sustainable Development of Agriculture and Rural Areas in the Kyushu Region: A Case Study of Fukuoka Prefecture

Hanako KYUSHU (Kyushu University)
Taro KYUSHU (Kyushu University)

Kyushu is warmer than other regions in Japan, and cultivation of land-use crops such as rice, wheat, soybeans, and fodder crops, as well as labor-intensive crops such as fruit trees and vegetables, is flourishing in the region. Kyushu is one of the regions in Japan where agriculture accounts for a large share of the national economy, and the search for ways to sustainably develop agriculture has become a major issue.